

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	2-73号尾林八ノ倉線整備事業	会計	一般会計	事業No.	598	施策順No.	72-010
事業種別	政策・重点	予算科目		8-2-3-11-7			
政策	7 自立・連携した地域づくり	課等名		土木課			
施策	72 自立に向けた住民組織力の向上	事業期間	開始	21	終了	26	

1 事業の目的

事業の目的 は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象 誰、何に	千代・龍江に居住する市民 千代IC(仮称)を利用したい人							A:十分達成した B:どちらかといえば達成した C:どちらかといえばできていない D:ほとんど達成できていない
		具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図 対象をどう変えるか	千代・龍江居住者数		5341	5065	5065	5065		
		千代IC(仮称)の利用台数(予測)		0	0	0	0		
22年度の目標達成度に対する振り返り 【政策的事業のみ評価】	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	22年度 実績	23年度 目標	目標達成度	
		進歩率% [1,754/320,000] (当年度までの実施済額/全体事業費×100)		0.5	14.1	1.1	34	C	
本線が横断する1級河川紅葉川の管理者との占用協議に日数を要したため、本線の設計が遅れ目標に達することができなかった。									

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度 (仕組み)説明	三遠南信自動車道の千代IC(仮称)へアクセスする市道の整備(千代ICの利用の利便性を向上させる) 総延長L=1,080m 幅員W=5.5(7.0)m			
22年度 事業内容	事業内容		名称	活動量・単位
	測量設計・地元協議・河川占用協議・交差点協議・測量設計(道整備交付金事業)		施工延長 幅員 測量設計	1 L=80m W=5.5(7.0)m 路線測量 1式 物件調査 1式 ボーリング調査 1式
23年度 実施計画	測量設計、物件補償(H22縁越) 用地買収・物件補償・工事施工(道整備交付金事業)		施工延長 幅員	L=80m W=5.5(7.0)m

3 事業コスト

事業費	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)道整備交付金(1/2) 22→23縁越明許費24,098千円
	国庫支出金	20,000	7,951	35,000	
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	20,007	7,958	35,000	
計 (A)		40,007	15,909	70,000	
正規職員所要時間			100		
臨時職員等所要時間					
人件費計 (B)			358		
トータルコスト A+B			16,267		

4 事業に対する市民や議会の意見

・市議会や市政懇談会において、中山間地域における高齢化・若者流出による人口減少の現状及び地域自治の運営を危惧する質問や意見、飯田市に対する対策を求める声が多数寄せられている。
・三遠南信自動車道飯島駅前工区の供用に向けて、千代・龍江両地区のまちづくり委員会合同でアクセス道路として本路線の改良要望が出されている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	住民組織が、地域で考え、地域で活動し、役割を果たせる組織となる。	施策の成果指標又はムース指標	自主的な地域づくりの参加人数(まちづくり委員会主催による活動)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	平成22年度から本格的に事業に着手し、地元協議も終え、関係機関との協議、道路詳細設計に着手した。		
	後期に向けた課題	改良を引き続き進め、早期完成を目指す必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	平成22年度から本格的に事業に着手し、地元協議も終え、道路詳細設計に着手した。		
	後期に向けた課題	改良を進め早期完成により、三遠南信自動車道の千代IC(仮称)への利便性を向上させるこちができる。		
コストを削減するためどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	現道を生かした、道路線形計画。		
	後期に向けた課題	工法の検討や効率的な事業実施によりコスト縮減を図りたい。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市道の整備であり、道路管理者として道路整備を行った。		
	後期に向けた課題	市道の整備であり、引き続き道路管理者として関与する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか)	4年間の振り返り	①市道の管理者は飯田市であり、通行車輌及び歩行者の安全確保。②道路管理者としての安全確保と利便性向上の道路整備。		
	後期に向けた課題	①市道の管理者は飯田市であり、通行車輌及び歩行者の安全確保。②道路管理者としての安全確保と利便性向上の道路整備。		
全体を通じて	4年間の振り返り	平成22年度より道整備交付金事業で事業実施ができた。		
	後期に向けた課題	引き続き、拡幅改良に取り組むことにより、効果が発揮できる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------